

ないという保証はない。出産することは犯罪、育児は死刑という社会、爆発する人口増と充満するスモッグの二十世紀の世界を画いた「赤ちゃんよ永遠に」というイギリスのSF映画がある。つまりある状況のもとでは、道徳や法律も当然変わってくるわけである。だから住民運動が人間の原点に立脚するものである限り、歴史の審判は住民の側にありといえるのである。

万葉の歌に「山はさけ、海はあせなむ世なりとも」といふのがあるが、いますでに「山は裂け、海は頰せなむ世」の時代が、ブルドーザーのもとに進められている。いまの国土改造計画は、自然破壊であり、生態系の破壊である。

いまほど、国土改造より国土修復の必要な緊急事態下の日本はかつてなかったと言えよう。本質的に不毛の自然はあり得ない。自然は元来豊かなものだ。

「自然は愛の極致である」

ゲーテ

(歯科医師)

△参考資料▽ 列島改造論の指標

項目 一九八五(昭和60年)目標 新全総

1 国民総生産	三〇四兆円	二〇〇兆円
2 工業生産額	七〇年の四倍以上	七〇年の二倍半以上
3 対外経済援助	七五億ドル以上(七〇年は十八億七〇年の四・一倍)	
4 資源エネルギー輸入	十年後世界の輸入の三〇%以上 六九年は一三・五%	
5 粗鋼需要量	二億トン 現在の二倍以上	七〇年の一・八倍
6 石油精製需要量	千五百万トン 現在の四倍	七〇年の二・二倍
7 石油化学エチレン需要量	千七百万トン 現在の四倍	
8 工業用地	二八万ヘクタール (六九年度末十二万ヘクタール)	
9 工業用水	日量三億二千万トン (現在九千万トン)	
10 ダム	千百ヶ所建設 (現在二百五ヶ所)	
11 高速自動車道路	一万キロメートル (現在七〇九キロメートル)	七千六百km
12 全国新幹線	九千キロメートル (現在六七六キロメートル)	
13 石油パイプライン	七千五百キロメートル	